

介護老人保健施設しおさい

症 例 概 要 ご利用者：100歳代 男性

利用期間：平成28年3月より長期入所を利用中

病 名 ：誤嚥性肺炎、右膝偽痛風

既往歴：前立腺肥大、認知症

経 過 ：平成28年2月に誤嚥性肺炎にて入院。入院中、右膝偽痛風も発症。治療を経て症状改善し、退院許可は出るも、自宅では介護が難しく、入所となった。入所後、超高齢とクラスターによる隔離により、ADLや身体機能が低下して行く中でも、毎日の努力の積み重ねにより、年齢に関係なく自分らしく輝ける事を感じた症例。

内 容

入所当初は活動的で、車椅子で自走し、笑顔で話す姿も多く見られていました。しかし、1年前のクラスター発生による隔離生活をきっかけに、拘縮が進み、スプーンを上手く使えなかったり、呼吸器症状が悪化してしまいました。発語も少なく不明瞭になり、動く事もなく、遠くを見つめてぼんやりしている事が多くなっていました。そこで、多職種間でミーティングを開催し、栄養科では栄養状態のチェックや嗜好品の提供、リハビリによる拘縮予防の為の動作指導、入所では声掛けの頻度を増やし、職員と共に自走やレク・体操への参加を促すといった事を行って行く事にしました。ご家族も、長寿のお祝いをしたいと伺っていたので、以前のご利用者らしい姿で長寿記念を迎える事を目標としました。しかし、取り組みを進めて行っても、目標とする姿に近づく様な変化は見られませんでした。再度、ミーティングを開催し、どういった取り組みをすれば良いのか等、意見交換をしましたが、具体的な解決策は見いだせないまま、取り組みを続け、日々が過ぎて行きました。そんなある日、これが長寿記念を目前にしたご利用者にとっての自然な事だと気づき、自分達の勝手な価値観で目標を設定していたんだと実感しました。初心に戻り、ユマニチュードで学んだ「その人らしさ」を軸に、ご利用者らしく長寿記念を迎える事を追及して行く事にしました。ご利用者は、長年にわたり納豆とヤクルトを毎朝欠かさず食べておられ、クラスター中も、現在も提供を続けています。女性が大好きで、好みの職員は驚くほど遠くからでも見つけて手を振ります。そんな一面をも大切にしながら、出来る事をご利用者のペースで出来ればいいと思い、ご利用者に寄り添い長寿記念に向かって歩んで行きました。念願であった誕生日当日、奇跡の様な事がいくつもありました。当施設でのお祝いの際、町長からの祝辞と賞状を受け取るご利用者は、実は私達の施設を町会議員として創設するにあたり、ご尽力して下さった方だったのです。また、スピーチの際、「あり

がとうございます。」と何時になくはっきりと力強く一言仰りました。ほんの一瞬のご子息との記念撮影の際、6人のお子さんの名前を全員呼んでいました。しおさい創設に携わったご利用者が、しおさいで長寿記念を迎え、想像もつかない程の長い人生を歩んだ末に仰った感謝の一言と込められた思い、その光景を目の前に私達は感動と誇らしさで胸がいっぱいになりました。長寿の偉業を成し遂げた誕生日は、ご利用者やご家族にとっても、キラキラ輝いた一日となりました。